

## 平成21年9月期 第1四半期決算短信(非連結)

平成21年1月30日

上場取引所 JQ

上場会社名 富士製薬工業  
 コード番号 4554 URL <http://www.fujiipharma.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 今井 博文  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部マネージャー (氏名) 上出 豊幸  
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月13日

TEL 03-3556-3344

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成21年9月期第1四半期の業績(平成20年10月1日～平成20年12月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年9月期第1四半期	3,908	△0.8	545	△27.7	547	△27.0	285	△38.9
20年9月期第1四半期	3,938	9.7	754	23.3	751	22.2	467	24.7

  

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年9月期第1四半期	22.19	—
20年9月期第1四半期	36.29	—

#### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
21年9月期第1四半期	20,067		15,124	75.4			1,175.19	
20年9月期	20,355		14,971	73.6			1,163.31	

(参考) 自己資本 21年9月期第1四半期 15,124百万円 20年9月期 14,971百万円

### 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年9月期	—	10.00	—	10.00	20.00
21年9月期	—	—	—	—	—
21年9月期(予想)	—	11.00	—	12.00	23.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成21年9月期の業績予想(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期累計期間	7,760	13.5	900	△12.4	905	△12.1	500	△21.8	38.85
通期	17,700	18.5	2,453	18.8	2,458	17.8	1,475	17.9	114.63

(注)業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

### 4. その他

#### (1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他 をご覧ください。

#### (2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他 をご覧ください。

#### (3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年9月期第1四半期	12,870,000株	20年9月期	12,870,000株
② 期末自己株式数	21年9月期第1四半期	10株	20年9月期	10株
③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	21年9月期第1四半期	12,869,990株	20年9月期第1四半期	12,869,990株

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、3ページ【定性的情報・財務諸表】3. 業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

2. 当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国経済は、米国におけるサブプライムローン破綻に端を発する世界的な金融危機の深刻化や株式・為替市場の大幅な変動などが、实体经济にも急速に影響を及ぼし、民間企業の設備投資は縮小し、雇用・所得環境が悪化するなど、景気の先行きに対する不透明感が一層拡大しました。

一方、医療用医薬品業界におきましては、医療保険財政の窮迫が進む中、ジェネリック医薬品使用促進の環境が更に進みつつあります。

このような状況のもと、当社は、重点領域である産婦人科領域において、不妊症治療薬等の主力製品のシェア拡大を図るとともに、新薬「ルナベル配合錠」（子宮内膜症に伴う月経困難症治療薬）の販売に注力致しました。また、DPC（入院医療包括評価）市場に向けては、基幹病院担当チームを中心として、新規開拓並びに取引拡大のための営業活動を展開してまいりましたが、当第1四半期の経営成績は売上高3,908百万円（前年同期比0.8%減）にとどまり、人員増による人件費の増加や新薬投入に伴う販売管理費の増加等により、営業利益は545百万円（前年同期比27.7%減）、経常利益は547百万円（前年同期比27.0%減）、四半期純利益は285百万円（前年同期比38.9%減）となりました。

### 2. 財政状態に関する定性的情報

#### （資産・負債及び純資産の部）

当第1四半期末における総資産額は20,067百万円となり、前事業年度末に比べ287百万円減少、純資産は15,124百万円と前事業年度末に比べ152百万円増加となりました。

資産の部においては、流動資産については、たな卸資産及び売上債権が増加したものの現預金が減少したこと等により57百万円減少、固定資産については230百万円減少しております。

負債の部においては、賞与の支払いにより361百万円減少、法人税等の支払いにより未払法人税等が319百万円減少したこと等により流動負債が460百万円減少しております。

純資産につきましては、利益剰余金が配当の支払いがあったものの当第1四半期までの利益により152百万円増加しております。

#### （キャッシュ・フローの状況）

当第1四半期末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ423百万円の減少し、2,557百万円となりました。

当第1四半期末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

#### ①営業活動によるキャッシュ・フロー

税引前四半期純利益486百万円に、減価償却費217百万円を加える一方、たな卸資産の増加額315百万円、賞与引当金の減少額361百万円、法人税等の支払額344百万円があったこと等により、営業活動で使用した資金は163百万円となりました。

#### ②投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得等による支出112百万円があったこと等により、投資活動により使用した資金は136百万円となりました。

#### ③財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払があったため、財務活動により使用した資金は123百万円となりました。

### 3. 業績予想に関する定性的情報

第1四半期会計期間においては、新製品が伸び悩むなど、売上が計画よりも低調に推移するなか、費用が先行しております。第2四半期会計期間においても同様に推移することが見込まれることから、第2四半期累計期間の業績予想を下記のとおり修正いたします。

なお、通期の業績に関しましては、DPC対象病院の更なる拡大が見込まれるなど、引き続きジェネリック医薬品市場拡大の環境整備が進んでいること、景気減退に伴い医療費負担軽減としてのジェネリック医薬品への期待が大きくなることなどから、当期の予想を据え置き、売上高17,700百万円、営業利益2,453百万円、経常利益2,458百万円、当期純利益1,475百万円と見込んでおります。

(第2四半期累計期間)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,284	1,057	1,059	635	49.41
今回発表予想(B)	7,760	900	905	500	38.85
増減額(B-A)	△524	△157	△154	△135	—
増減率(%)	△6.3	△14.9	△14.5	△21.3	—
前中間実績	6,839	1,027	1,029	639	49.66

### 4. その他

#### (1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

##### 1. 簡便な会計処理

##### ①固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算出する方法によっております。

##### ②たな卸資産の評価方法

たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ、正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

##### ③一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第1四半期会計期間末の貸倒実績等が前事業年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前事業年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

##### 2. 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理

該当なし

#### (2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

##### 1. 当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

##### 2. たな卸資産の評価基準及び評価方法の変更

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、先入先出法による原価法によっておりましたが、当第1四半期会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、先入先出法による原価法(貸借対照表については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。これにより、税引前四半期純利益が54百万円減少しております。

#### (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

#### (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

5. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成20年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,951,346	2,275,671
受取手形及び売掛金	6,414,976	6,291,256
有価証券	706,153	705,481
商品	457,103	476,086
製品	784,414	834,827
原材料	1,452,413	1,120,594
仕掛品	812,460	760,037
貯蔵品	89,500	88,763
その他	488,401	661,391
貸倒引当金	△1,924	△1,887
流動資産合計	13,154,845	13,212,222
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,563,489	2,619,554
その他（純額）	1,626,248	1,623,004
有形固定資産合計	4,189,737	4,242,558
無形固定資産	1,320,526	1,372,300
投資その他の資産	1,402,115	1,528,033
固定資産合計	6,912,379	7,142,892
資産合計	20,067,225	20,355,114
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,758,855	2,680,819
未払法人税等	39,182	358,299
賞与引当金	209,655	571,135
役員賞与引当金	5,000	15,600
返品調整引当金	14,765	11,913
その他	1,150,883	1,001,515
流動負債合計	4,178,342	4,639,283
固定負債		
退職給付引当金	477,043	461,802
その他	287,119	282,238
固定負債合計	764,162	744,041
負債合計	4,942,504	5,383,325

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成20年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,616,950	1,616,950
資本剰余金	2,841,587	2,841,587
利益剰余金	10,669,545	10,512,692
自己株式	△7	△7
株主資本合計	15,128,075	14,971,222
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△3,354	567
純資産合計	15,124,720	14,971,789
負債純資産合計	20,067,225	20,355,114

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)
売上高	3,908,148
売上原価	2,164,415
売上総利益	1,743,732
販売費及び一般管理費	1,198,703
営業利益	545,028
営業外収益	
受取利息	1,409
受取配当金	161
その他	1,849
営業外収益合計	3,419
営業外費用	
支払利息	157
減価償却費	112
その他	187
営業外費用合計	458
経常利益	547,990
特別損失	
固定資産除却損	1,116
たな卸資産評価損	54,337
その他	6,000
特別損失合計	61,454
税引前四半期純利益	486,535
法人税、住民税及び事業税	33,124
法人税等調整額	167,858
法人税等合計	200,982
四半期純利益	285,553

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純利益	486,535
減価償却費	217,969
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	15,240
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	37
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△361,479
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△10,600
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	2,852
受取利息及び受取配当金	△1,570
固定資産除却損	1,116
売上債権の増減額 (△は増加)	△123,720
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△315,583
前渡金の増減額 (△は増加)	△32,103
未収入金の増減額 (△は増加)	21,820
前払費用の増減額 (△は増加)	9,018
長期前払費用の増減額 (△は増加)	26,547
仕入債務の増減額 (△は減少)	78,035
未払金の増減額 (△は減少)	5,031
長期未払金の増減額 (△は減少)	3,108
未払費用の増減額 (△は減少)	16,700
未払消費税等の増減額 (△は減少)	32,568
その他	113,951
小計	185,478
利息及び配当金の受取額	1,752
法人税等の支払額	△344,693
その他の支出	△6,000
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△163,463</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△112,324
無形固定資産の取得による支出	△24,408
その他	△78
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△136,811</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
配当金の支払額	△123,377
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△123,377</b>
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△423,652
現金及び現金同等物の期首残高	2,981,152
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,557,500

「参考資料」

前四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期損益計算書

科目	前年同四半期 (平成20年9月期 第1四半期)
	金額(千円)
I 売上高	3,938,579
II 売上原価	2,179,651
売上総利益	1,758,928
III 販売費及び一般管理費	1,004,610
営業利益	754,317
IV 営業外収益	2,359
V 営業外費用	5,534
経常利益	751,142
VI 特別損失	6,439
税引前四半期純利益	744,702
税金費用	277,614
四半期純利益	467,087

## (2) (要約) 四半期キャッシュ・フロー計算書

	前年同四半期 (平成20年9月期 第1四半期)
区分	金額(千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
1 税引前四半期純利益	744,702
2 減価償却費	150,750
3 賞与引当金の増加額(△は減少)	△333,807
4 売上債権の増加額	△504,978
5 たな卸資産の増加額	△198,100
6 仕入債務の増加額	118,849
7 その他	15,633
小計	△6,949
8 利息及び配当金の受取額	1,405
9 法人税等の支払額	△568,244
営業活動によるキャッシュ・フロー	△573,788
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
1 有形固定資産の取得等による支出	△110,722
2 無形固定資産の取得等による支出	△263,230
3 その他	△52,428
投資活動によるキャッシュ・フロー	△426,380
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
配当金の支払額	△143,011
財務活動によるキャッシュ・フロー	△143,011
IV 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,143,180
V 現金及び現金同等物の期首残高	3,643,351
VI 現金及び現金同等物の期末残高	2,500,171